

建築学科			サステナビリティ学				
学年	第3学年	担当教員名	杉山 伸一				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		科学技術が社会や環境に与える影響を認識し、専門知識を活かして問題解決に挑む使命感を養う。 本科目は、これらの必要性を生物学と地学の視点から理解する。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		講義の内容、演習問題などのプリントは適切に保管整理して下さい。					
到達目標		生物学的視点と地学的視点から、地球環境問題を考えることができる。					
成績評価方法		合否判定: 2回の定期試験の平均点が60点以上であること。 最終評価: 授業態度(±10%)を考慮する。					
テキスト・参考書		教科書: 総合理科B (教育出版, 文部科学省検定教科書) 参考書: チャート式シリーズ新生物I (数研出版) 集団と環境の生物 (放送大学教科書)					
メッセージ		授業は、新しい概念を得るだけでなく、誤った概念や先入観を正す場です。 皆さんの楽しい雰囲気、活発な発言が内容を豊かにします。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
ガイダンス (1回) 種と遺伝子 (3回) 生態系と物質循環 (3回)			サステナビリティの概念を説明できる。 生物の種の多様性と遺伝子の関わりを説明できる。 生態系と物質循環を理解できる。				
前期中間試験			実施する				
DNA (2回) 地球環境と進化 (3回) 環境問題 (2回)			DNAの構造と働きを理解できる。 地球環境と進化の関わりを説明できる。 主な環境問題事例を説明できる。				
前期期末試験			実施する				
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			英会話				
学年	第3学年	担当教員名	B r i a n H a y c o x				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	選択	履修単位
授業の目標と概要		To promote an awareness, understanding and tolerance of foreign cultures. Try to have the students realise the importance of communication skills and strategies in language learning.					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標	f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		Active participation in class. Notebook, pen, dictionary and textbook. Try to use English as much as possible in class.					
到達目標		To reinforce the contents of the text by using realia, film, games, sports and cooking (if possible). And to equip the students with the communication skills and strategies needed for effective communication in English.					
成績評価方法		Oral Test (Interview) 70%. Classroom participation and assessment of communication skills 30%. A detailed description and distribution of scores will be explained before each exam.					
テキスト・参考書		Textbook: Outlook (book1), Adams + Crawford + Finnie + Gormeley (Thomson-Heinle) References: Practical English Usage, Michael Swan (Oxford Univ. Press) English Vocabulary in Use, McCarthy + O'Dell (Cambridge Univ. Press) Conversation, Rob Nolasco + Lois Arthur (Oxford Univ.					
メッセージ		Try to relax, enjoy yourself and take your English up to the next level. From day one, remember, if you want to improve your English, you can!!					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1. My family--be, have, Simple Present 2. Language--Present Continuous Tense, Simple Present 3. Enjoy yourself! Simple Past, used to, phrasal verbs. 4. Sports--Past continuous--Simple Past, action verbs. 5. Unusual Expressions--Present Perfect--phrasal verbs. (Number of Classes: 6)			1. Giving personal information. Multiple choice pictures. 2. Asking and answering questions. Prepositions,opposites. 3. Inviting and acception an invitation. Dialogue. 4. Talking about differences between pictures. 5. Giving personal information. Multiple choice pictures.				
前期中間試験			実施しない				
6. Work--Present Perfect--Simple Past--Word formation 7. Hotels--Future with Will 8. Entertainment--Simple Present--Present Continuous(future meaning) 9. Back to Nature--Modals-ability, Modals-necessity. 10. Health--Relative Clauses. (Number of Classes: 9)			6. Jobs. Asking and answering questions. E-mail 7. Hotel related words. Booking a room at a hotel. 8. Telling a story. Blank filling. Prepositions 9. Giving personal information. Multiple choice. 10. Asking and answering questions. Writing notes.				
前期期末試験			実施する				
11. In Town--Count and Non-count Nouns 12. School--Tag questions, so, because 13. Our World--Modas-advice, Prepositions 14. TV and Radio--Modals-possibility 15. Crime--First Conditional. (Number of Classes: 9)			11. Commuication. Asking for and giving directions 12. Blank filling. Talking about differences in pictures 13. Multiple choice. Giving personal information 14. Asking and answering questions. 15. Giving information and describing.				
後期中間試験			実施しない				
16. Home--Second Conditional, compound nouns. 17. It's an Illusion--Gerund, Opposites. 18. Transportation--Infinitive, transportation verbs. 19. Colour--Comparatives, Superlatives. 20. Eating--Passive voice, Prepositions. (Number of Classes: 6)			16. Telling a story. (In the Past) 17. Giving personal information. Multiple choice. 18. Asking and answering questions. 19. Communication. (Asking and giving advice.) 20. Talking about differences in pictures. Recipes				
後期期末試験			実施する				

建築学科			英語				
学年	第3学年	担当教員名	阿部 孝士				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		テキストの説明や練習問題を通して、構文という支店から英文を理解し、簡潔かつ適切で論理的な英語の文章を作成したり、英会話等によるコミュニケーションのための基礎的な英語力の定着を目指す。					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標	f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		基本的な英文法を理解することが必要である。 毎時間、授業範囲からの小テストを実施する。					
到達目標		簡潔なものでも、適切かつ論理的な英語の文章が作成できる。 平易な英語の文章を適切に読み取ることができる。					
成績評価方法		定期試験の成績の平均を70%、その他のテストの成績の平均を30%として、その合計点を本授業の成績とする。授業への参加態度も考慮する。なお、居眠り、私語、暴言、教科書忘れに対しては減点するので注意すること。(習熟度授業の成績も含めた「英語」の成績評価の算出方法については、習熟度授業のシラバスを参照のこと。)					
テキスト・参考書		テキスト:基礎からの英語構文90(第一学習社) 参考書:英文法解説(金子書房)					
メッセージ		欠席すると、毎時間行なう小テストが0点となるので注意すること。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1章.itを含む構文 2章.助動詞を含む構文			各構文の意味を理解し、その構文を用いて適切な英文を作ることができる。				
前期中間試験			実施する				
3章.不定詞を含む構文 4章.分詞を含む構文 5章.動名詞を含む構文			各構文の意味を理解し、その構文を用いて適切な英文を作ることができる。				
前期期末試験			実施する				
6章.関係詞を含む構文 7章.比較構文 8章.否定構文			各構文の意味を理解し、その構文を用いて適切な英文を作ることができる。				
後期中間試験			実施する				
9章.名詞中心の構文 10章.時を表わす構文 11章.原因・理由を表わす構文			各構文の意味を理解し、その構文を用いて適切な英文を作ることができる。				
後期期末試験			実施する				

建築学科			英語(習熟度別)				
学年	第3学年	担当教員名	林 幸利				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	習熟度別	履修単位
授業の目標と概要		教科書、単語集を活用することにより、英語検定準2級に合格できるレベルの単語・熟語、文法知識の習得、英文の読解力の向上、聞き取り能力の向上を目指す。 釧路高専目標(F-6) JABEE(f)					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		年間15回程度、単語集の「単語テスト」を実施する。 英検準2級に合格した場合は英検2級コースまたは多読コースに移ることができる(ただし第1回英検についてのみ)。 再試験は学年末の1回のみとする。					
到達目標		英語検定準2級に合格するレベルの英語力を習得できる。					
成績評価方法		定期試験の成績を70%、「単語テスト」の成績を30%として習熟度クラスの成績を出し、その結果と学科別クラスの成績を足した合計点に0.7を掛け、その点数に、英検準2級の2次合格者(2級以上の2次合格者も含む)に30点、1次合格者には26点、A判定には21点、B判定には15点、C判定には0点を足した点数を英語の総合成績とする。					
テキスト・参考書		教科書1:英検準2級合格セミナー(旺文社) 教科書2:英検文で覚えるプラス単熟語準2級(旺文社) 参考書1:プラクティカルジーニアス英和辞典(大修館) 参考書2:2008年度英検準2級全問題集(旺文社)					
メッセージ		学科別の授業も合わせて、是非力をつけて英検準2級合格を目指してください。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
Lesson 1 Lesson 5 語彙・熟語 文法 リスニング				1.各設問(英検準2級基礎レベル)の正答に至るプロセスが理解できる。 2.単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。			
前期中間試験				実施する			
Lesson 6 Lesson 11 作文 読解 リスニング				1.各設問(英検準2級基礎レベル)の正答に至るプロセスが理解できる。 2.単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。			
前期期末試験				実施する			
Lesson 12 Lesson 16 語彙・熟語 文法 リスニング				1.各設問(英検準2級標準レベル)の正答に至るプロセスが理解できる。 2.単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。			
後期中間試験				実施する			
Lesson 17 Lesson 21 作文 読解 リスニング				1.各設問(英検準2級標準レベル)の正答に至るプロセスが理解できる。 2.単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。			
後期期末試験				実施する			

建築学科			英語(習熟度別)				
学年	第3学年	担当教員名	片岡 務				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	習熟度別	履修単位
授業の目標と概要		平易な英語の文章を限られた時間の中で数多く読み、その内容を的確に読み取るという、いわゆる多読の授業である。多読を通じて英語的な表現に数多く接することで、論理的に記述された英文の内容を読み取る力の向上のみならず、語彙力の増強をもめざす。なお毎回授業の最初に、各自の読解力のチェックのために、速読教材を用いた「小テスト」を実施する。(この授業は英語検定準2級1次試験に合格した学生を対象にした習熟度別授業のひとつのコースである。)					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		テキストは易しいものからある程度読み応えのあるものまで数十冊を英語科の方で用意した。学生は各自、自分のレベルに応じて、そのテキストの中から適切と思われるものを選び、極力辞書等を使わずに読んでいく。読み終えたら各自の「読書ノート」に必要な事項を記入し、次のテキストを読んでいく。教師は、適宜「読書ノート」をチェックしたり、学生に簡単な質問をすることで学生の理解度を確認する。					
到達目標		論理的な英文の内容を的確に読み取れるようになるために、見出し語レベル1000～1500語の英文を極力辞書等を使わないで読み進めることができる。					
成績評価方法		授業時間中に読んだ英文の量と英文のレベルに応じて算出した評価点を40%、「小テスト」の成績を10%、定期試験での成績を50%として本授業での成績を算出し、その成績と「構文」の授業での成績との平均点に0.7を乗じ、その点数に英検準2級による評価点(合格30点,1次合格26点,A判定21点,B判定15点)を加えた点数を英語の成績とする。					
テキスト・参考書		テキスト:Nelson社の PM PLUS シリーズ、Nelson Focusシリーズ、Flying Colors シリーズ、Bookwebシリーズ、Zebrasシリーズ					
メッセージ		本授業は各自が自主的に英文のテキストを読み進めていくというスタイルの授業であるので、授業中に私語を続けたり大きな声や物音を立てることは厳に慎んでもらいたい。テキストはバラエティに富んだものを用意したので、各自、自分のレベルや興味に合ったテキストを選び、積極的に読み進めていってもらいたい。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
・「小テスト」 ・各自が選んだテキストを、極力辞書等を使わないで読んでいく。 読み終えたら各自の「読書ノート」に必要な事項を記入する。 (7回)				テキストの内容を的確に把握できる。			
前期中間試験				実施する			
・「小テスト」 ・各自が選んだテキストを、極力辞書等を使わないで読んでいく。 読み終えたら各自の「読書ノート」に必要な事項を記入する。 (8回)				テキストの内容を的確に把握できる。			
前期期末試験				実施する			
・「小テスト」 ・各自が選んだテキストを、極力辞書等を使わないで読んでいく。 読み終えたら各自の「読書ノート」に必要な事項を記入する。 (7回)				テキストの内容を的確に把握できる。			
後期中間試験				実施する			
・「小テスト」 ・各自が選んだテキストを、極力辞書等を使わないで読んでいく。 読み終えたら各自の「読書ノート」に必要な事項を記入する。 (8回)				テキストの内容を的確に把握できる。			
後期期末試験				実施する			

建築学科			英語(習熟度別)				
学年	第3学年	担当教員名	伊関 敏之				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	習熟度別	履修単位
授業の目標と概要		テキスト、単語集、その他の教材を活用することにより、英語検定準2級に合格できる英語力の習得を目指す。					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		年間16回程度の単語テストを実施する。					
到達目標		英語検定準2級レベルの英語力の習得					
成績評価方法		定期試験を70%、単語テストを30%として、その合計点が60点以上の者に対し、10%を上限として平常点を加算減算することがある。その結果と学科別クラスの成績を平均し、それに0.7を乗じた点数に、英検準2級以上の合格者には30点、準2級1次試験合格者には26点、A判定には21点、B判定には15点を加えた点数を最終成績とする。					
テキスト・参考書		教科書1:英検準2級合格セミナー(旺文社) 教科書2:英検文で覚えるプラス単熟語準2級(旺文社) 参考書:プラクティカルジーニアス英和辞典(大修館)					
メッセージ		4技能(読む、書く、聞く、話す)をバランスよく身につけて、英検準2級合格を達成できるように最善を尽くそう。学年末の再試験は1回のみとする。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1、テキスト Lesson 1-5 2、単語テスト No.1-5 (7回)				1、各設問の正答に至るプロセスが理解できる。 2、単熟語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。			
前期中間試験				実施する			
1、テキスト Lesson 6-11 2、単語テスト No.6-8 (7回)				1、各設問の正答に至るプロセスが理解できる。 2、単熟語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。			
前期期末試験				実施する			
1、テキスト Lesson 12-16 2、単語テスト No.9-14 (7回)				1、各設問の正答に至るプロセスが理解できる。 2、単熟語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。			
後期中間試験				実施する			
1、テキスト Lesson 17-21 2、単語テスト No.15-16 (7回)				1、各設問の正答に至るプロセスが理解できる。 2、単熟語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。			
後期期末試験				実施する			

建築学科			英語 (習熟度別クラス)				
学年	第3学年	担当教員名	吉田茂				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	習熟度別	履修単位
授業の目標と概要		テキスト、単語集、その他の教材を使用し、英語検定準2級に合格できる英語力の習得を目指す。 釧路高専目標 (F) JABEE (i)					
		釧路高専目標	A:70%,B:30%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		年間16回程度の単語テストを実施する。					
到達目標		英語検定準2級レベルの英語力の習得					
成績評価方法		定期試験70%、単語テスト、小テスト30%の合計=A Aが60点以上の者に対し、 $A \times 0.7 = B$ Bの点数に英語検定合格者は30点、一次合格者には26点、A判定者には21点、B判定者には15点を加えた点数を最終成績とする。(授業者の判断により、欠席・遅刻・居眠り・授業以外の言動・私語・暴言等、授業に支障を与える言動は減点する)					
テキスト・参考書		教科書:英検準2級合格セミナー(旺文社) 教科書:英検分で覚えるプラス単語準2級(旺文社) 参考書:英検準2級頻出度別問題集(高橋書店)					
メッセージ		大量の英文と接するが、必要な量である。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1)TEXT Lesson1-7 2)単語テスト No.1-5(7回)				1)各設問の正答に至るプロセスが理解できる。 2)50問中30問に正答できる。			
前期中間試験				実施する			
1)TEXT Lesson8-11 2)単語テスト No.6-8(7回)				1)各設問の正答に至るプロセスが理解できる。 2)50問中30問に正答できる。			
前期期末試験				実施する			
1)TEXT Lesson12-17,23 2)単語テスト No.9-14(7回)				1)各設問の正答に至るプロセスが理解できる。 2)50問中30問に正答できる。			
後期中間試験				実施する			
1)TEXT Lesson18-22 2)単語テスト No.15-16(7回)				1)各設問の正答に至るプロセスが理解できる。 2)50問中30問に正答できる。			
後期期末試験				実施する			

建築学科			英語(習熟度別クラス2)				
学年	第3学年	担当教員名	廣瀬由幸				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	習熟度別	履修単位
授業の目標と概要		英検2級対応のテキストを活用することによって、これに見合ったレベルの単語、熟語、文法知識等を習得できる。 釧路高専目標(F)					
		釧路高専目標	A:70%,B:30%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		辞書を持参すること。テキストの予習をしておくこと。					
到達目標		英語検定2級レベルの英語力の習得。					
成績評価方法		(定期試験4回の平均(80%) + 小テスト(20%)) × 0.7 = (A) 英語検定試験2級合格者には30点、一次合格者には26点、A判定には21点を(A)に加算する。 小テストは適宜実施する。担当教員の判断により、遅刻・欠席・居眠り・私語・暴言等授業に支障をきたすと判断される言動は減点する。					
テキスト・参考書		教科書:英検2級合格セミナー(旺文社) ¥2,600 参考書:英検2級頻出問題集(高橋書店) ¥1,350 参考書:英検Pass単熟語2級(旺文社) ¥1,100					
メッセージ		英検2級レベルに合った英語力の習得を目指し、一定量の問題を解く演習授業です。予習、復習は必須です。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1教科書Lesson1-5 2その他 (7回)				1)教科書、その他プリントにある各設問の正答に至るプロセスが理解できる。			
前期中間試験				実施する			
1教科書Lesson 6-11 2その他 (7回)				1)教科書、その他プリントにある各設問の正答に至るプロセスが理解できる。			
前期期末試験				実施する			
1教科書Lesson 12-17 2その他 (7回)				1)教科書、その他プリントにある各設問の正答に至るプロセスが理解できる。			
後期中間試験				実施する			
1教科書Lesson 18-24 2その他 (7回)				1)教科書、その他プリントにある各設問の正答に至るプロセスが理解できる。			
後期期末試験				実施する			

建築学科			応用物理				
学年	第3学年	担当教員名	梅津 裕志				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		物理現象を実体験として理解し、それを通史的、数式的にとらえる能力を養う。科学的思考力を養うとともに、学ぶことの楽しさを実感してもらいたい。3学年では特に電磁気を扱う。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	c	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		演習・実験・試験の際には、関数電卓が必要です。電卓の機能を十分活用できるようにしておいて下さい。					
到達目標		電位や電場等、電磁気に関する基本的概念を図示できる。 電磁気の各種公式を覚え、それを用いて基本的な計算ができる。					
成績評価方法		合否判定: 4回の定期試験の平均点が60点以上であること。 最終評価: 共通試験の結果を加算する(5%)。					
テキスト・参考書		教科書:基礎からの物理学(原康夫,学術図書出版) 参考書:単位が取れる電磁気学ノート(橋元 淳一郎,講談社) 物理II(東京書籍,文部科学省検定教科書)					
メッセージ		用語や記号を覚えてしまうことで、授業の内容の理解も早まります。 授業は、新しい概念を得るだけでなく、誤った概念や先入観を正す場です。 皆さんの楽しい雰囲気,活発な発言が内容を豊かにします。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
ガイダンス (1回) クーロンの法則 (2回) 電場 (2回) ガウスの法則 (2回)				数値の科学表記ができる。 電荷間にはたらく力を算出できる。 電場の定義を知り、電気力線を図示できる。 対称性の高い電場を算出できる。			
前期中間試験				実施する			
電位 (2回) 電気容量 (2回) キャパシタの接続 (2回) オームの法則 (1回)				平板キャパシタ,点電荷周辺の電位を算出できる。 キャパシタの電気容量を算出できる。 キャパシタ回路の計算ができる。 抵抗回路の計算ができる。			
前期期末試験				実施する			
アンペールの法則 (3回) フレミング左手の法則 (2回) ローレンツ力 (2回)				対称性の高い電流磁場を算出できる。 電流や電荷にはたらく力を図示できる。 ローレンツ力を算出できる。			
後期中間試験				実施する			
電磁誘導の法則 (2回) 電磁波 (3回) 交流回路 (2回)				誘導起電力を算出できる。 電磁波の種類を分類できる。 インピーダンスを算出できる。			
後期期末試験				実施する			

建築学科			建築CAD				
学年	第3学年	担当教員名	千葉 忠弘・大槻 香子				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		実際に標準的なCADソフトで操作することにより、情報技術を利用した建築設計技法を習得する。2次元作図の演習を通して、CADの基礎的な知識を習得し、3次元におけるモデリングの演習を通して、CADの専門的知識を応用した建築設計製図の作図を実施する。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	c	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		演習課題は、1回の講義につき2・3課題を出題する。提出期限を守りかつ、未提出課題をつくらないように、講義中に提出できなかった課題については自習にて提出する。各自所有のパソコンに講義で使用する体験版ソフトをインストールし、自宅で復習することが望ましい。					
到達目標		建築CAD検定3級レベルの2次元作図による建築平面図作成ができること。 3次元における建築物のモデリングが作成できること。					
成績評価方法		可否の判定は定期試験4回の平均点において決定する。 評価基準は、定期試験50%、小テスト40%、提出状況10%とする。					
テキスト・参考書		教科書: VectorWorks12学習帳(エクснаレッジ) 参考書: 超入門VectorWorks12で学ぶ建築製図の基本(エクснаレッジ)					
メッセージ		建築CADを身近な存在として道具化してほしい。 そして、建築CAD検定3級の合格レベルに達してほしい。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
講義のガイダンス、MacOSの使い方(1回) CADの概略と簡単な作図(2回) 2D製図の基本操作(4回)				WindowsとMacOSの違いを理解できる ドローイングソフトとの違いを理解できる 図形選択、編集操作を理解できる			
前期中間試験				実施する			
2D製図の基本操作(2回) 建築CAD検定・3級レベルの練習(3回) 建築平面図の作成手順の練習その1(3回)				素早く2次元作図の入力ができる レイヤーを使った建築平面図の作図手順を理解できる			
前期期末試験				実施する			
建築平面図の作成手順の練習その2(2回) 3Dの基本操作(4回) シンボルについて(1回)				レイヤーを使った建築平面図の作図手順を理解できる 3次元モデル、編集方法を理解できる シンボルの概念を理解できる			
後期中間試験				実施する			
シンボルについて(2回) 建築作品のモデリングとレンダリング(6回)				シンボルが作成できる 建築作品のモデリングが行える。			
後期期末試験				実施する			

建築学科			建築環境工学				
学年	第3学年	担当教員名	森 太郎				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		建築技術者に必要な建築環境工学のうち主として伝熱, 湿気, 換気分野を学習する. 物理学や数学をベースに建築環境工学の基礎知識を修得しそれを応用する能力を身につける.					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	c	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		基礎知識として1, 2学年の物理学が必要である. 2回の定期テストのほかに2回の単元テストを行う. 各単元ごと5回程度のレポートの提出を求める.					
到達目標		建築環境工学に関する専門用語を身につけていること. 伝熱, 湿気, 換気メカニズムを説明できる. 伝熱, 湿気, 換気演習問題が解ける.					
成績評価方法		合否判定: 2回の定期試験と2回の単元テストの平均が60 点を超えていること. 最終評価: テストの平均点(80点), レポートの結果(20点)					
テキスト・参考書		テキスト: 環境工学(朝倉書店) 参考書: 最新建築環境工学(井上書院)等					
メッセージ		建築環境工学は熱, 空気, 光, 音と幅広い知識が求められる. ただし建築士試験に合格することのみを目標にするのであれば, 必要な語句や公式はそれほど多くない. しかし, 建物はそれを使用する人間がいるのである. 法律を満足したからといって多くの人が満足する環境が形成されるわけでもなく, また多くの人が満足する環境が必ずしも理にかなったものとは限らないのである. この授業を通して, 自分の体をセンサーとして「快適な環境とはなにか」について考えて欲しい.					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験							
前期期末試験							
1. 気候(2回) (1) 地球環境(2) 気象要素と都市気候 2. 熱環境(4回) (1) 代謝(2) 熱環境の測定 (3) 熱環境指標(4)単元テスト 3. 伝熱(9回) (1) 伝熱過程(2 回)(2) 熱伝達(2 回) (3) 熱貫流(2 回)(4) 室温形成と室温変動(2 回) (5) 熱負荷(1 回)				現在の地球環境の状況を説明できる. 都市域の気象の特殊性を説明できる. 室内の基本的な熱的環境特性を説明できる. 伝熱過程の基本的なメカニズムを説明できる. 熱の伝導, 対流, 放射に関する基本的な計算ができる. 熱伝達に関する基本的な計算ができる. 熱貫流に関する基本的な計算ができる. 室温変動の微分方程式による記述を説明できる. 暖冷房に必要な年間の熱量がどのように示されるか説明できる.			
後期中間試験				実施する			
4. 湿気(5 回) (1) 湿り空気線図(2) 湿気の移動(3) 室内湿度の形成と変動 (4) 結露(5)単元テスト 5. 換気 (1) 換気目的(1 回)(2) 必要換気量(1 回) (3) 換気計算の方法(3 回)(4) 圧力差(1 回) (5) 風量係数の結合(1 回)(6) 風力換気(1 回) (7) 温度差換気(1 回)(8) 換気計画(1 回)				湿り空気線図に表される要素の定義を説明できる. 湿り空気線図を用いて各要素の値を計算できる. 湿気移動の基本的なメカニズムを説明できる. 壁構造の壁体表面あるいは壁体内部の結露に関する基本的な計算ができる. 換気目的を理解し, 基本的な換気方法を説明できる. 完全混合状態の必要換気量を計算できる. 圧力に関する基礎的知識を身につけている. 複数の風量係数の結合ができる. 風力, 温度差による圧力差を算出し換気量を計算できる.			
後期期末試験				実施する			

建築学科			建築計画				
学年	第3学年	担当教員名	佐藤 彰治				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		人間の生活上の要求を充たした「建築空間」を創るために必要となる基本的な専門知識を修得することを目標とする。3年次では「総論」と「住宅建築」に関わる計画手法、設計上の必要事項について学ぶ。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-1	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		1年、2年次の住宅の設計及び製図の基礎知識が応用できる。 配布されたプリント冊子を毎回持参する。					
到達目標		1. 建築計画に関わる手法、基本的な法規制が理解できること。 2. 住宅建築に関わる基本知識と住宅空間の適切な計画手法が理解できること。					
成績評価方法		定期試験点数(前期中間×0.4＋前期末×0.6)が60点以上合格とする。 同点数90%＋提出物10%を最終評価とする。					
テキスト・参考書		教科書なし(建築計画概論および住宅計画に関する配布資料) 参考書 - コンパクト建築設計資料集成(日本建築学会編) 新建築設計ノート「住宅」・同「集合住宅」(彰国社)					
メッセージ		建築計画系科目のなかで、最も基礎となる知識を習得する科目である。 板書による解説が中心なので、ノート作成が必要となる。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1.建築計画の概論(4回) 2.計画各論「住宅」～住宅の概論(目的、分類など)(3回)			1.風土の関わり、計画の位置づけ、建築一般の計画手法、法規制(計画に関すること)の一部等が理解できること 2.住宅の目的、分類、各種住宅の特徴などを理解できること				
前期中間試験			実施する				
3.計画各論「住宅」～住宅の空間計画(5回) 4.計画各論「集合住宅」(3回)			3.敷地の選定方法、配置計画、住生活空間の分類と各空間に必要な諸室や計画手法が理解でき、設計に応用することができること 4.集合住宅の配置計画、住棟計画、住戸の計画の必要事項が理解できること				
前期期末試験			実施する				
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			建築構造力学				
学年	第3学年	担当教員名	加藤雅也				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		建築技術者に必要な建築構造力学の基礎として、応力度、ひずみ度、断面の特性、圧縮材の座屈等について学習する。物理学や数学をベースとして基礎知識を修得し、それらに応用する能力を身につける。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	c	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		第2学年の建築構造力学について十分理解している必要がある。 授業では主として講義形式で基本的な事柄について理論(考え方)を示し、適宜演習を行う。 さらに、自学自習用の課題を与える場合がある。					
到達目標		応力度とひずみ度、断面の諸特性、断面の応力度、圧縮材の座屈に関する基礎的知識を身につけている。 また、それらに関する基本的な演習問題が解ける。					
成績評価方法		合否判定:2回の定期試験の結果の平均が60点を超過していること。 最終評価:2回の定期試験の結果の平均点とする。					
テキスト・参考書		テキスト:建築構造力学 第2版(森北出版) 参考書:建築構造力学講義(培風館) 建築構造力学演習(培風館) 応用力学Q&A(山海堂)					
メッセージ		講義を理解し演習を行うには十分な予習が必要であり、知識の定着には復習(反復練習)が必要である。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1. 応力度とひずみ度 応力度(4回) ひずみ度(2回) 応力度とひずみ度の関係(2回) 2. 断面の性質 断面1次モーメント、断面2次モーメント(4回) 断面相乗モーメント、極二次モーメント、主軸(1回) 断面係数、断面2次半径(2回)			応力度の意味を理解し、基本的な応力度の計算ができる。 モールの応力円を理解し、応力度の計算ができる。 ひずみ度の意味を理解し、ひずみ度の計算ができる。 ヤング係数、せん断弾性係数の意味を理解し、応力度とひずみ度の関係を説明できる。 基本的な断面に対して、断面の性質の計算ができる。 断面の主軸の意味を説明できる。				
前期中間試験			実施する				
3. 断面の応力度 単純梁、片持ち梁の応力(1回) 軸方向力による応力度(2回) 曲げモーメントによる応力度(3回) せん断力による応力度(2回) 3. 断面の応力度 偏心荷重による応力度(4回) 4. 圧縮材の座屈(3回)			軸方向力による応力度を理解し、基本的な計算ができる。 曲げモーメントによる応力度を理解し、基本的な計算ができる。 せん断力による応力度を理解し、基本的な計算ができる。 偏心荷重が作用したときの垂直応力度を計算できる。 断面の核の意味を理解し、算出できる。 基本的な支持条件に対する圧縮材の座屈長さ、座屈荷重を計算できる。				
前期期末試験			実施する				
後期中間試験							
後期期末試験							

建築学科			建築材料				
学年	第3学年	担当教員名	三森敏司				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		建築の計画・設計・施工に関して建築材料選定の善し悪しが、建築物の外観・構造・耐久性・機能性・居住性などに大きく影響する。従って使用材料について、その特性・品質・耐久性・形状・寸法などを知ることが安全で快適な建築への第一歩となる。本講義では、構造材料、非構造材料、機能材料、仕上げ材料についての基礎知識を初歩から学ぶ。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-3	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		授業用ノートをしっかりと記録し、復習を怠ることのないようにしましょう。					
到達目標		建築物に用いられる各種建築材料の素材としての性質が理解できる。 各種建築材料の組成、性能、種類、用途が理解できる。 各種材料の規格・基準を理解し、材料選定における基礎事項を把握できる。					
成績評価方法		合否判定:4回の定期試験の結果の平均が60点以上であること。 最終評価:4回の定期試験の結果の平均(90%)と授業への積極的参加の評価(±10%)					
テキスト・参考書		教科書:建築材料(森北出版) 参考書:建築材料用教材(日本建築学会)、建築材料(市ヶ谷出版)、新・建築材料・Ⅱ(数理工学社)					
メッセージ		建築材料の範囲はきわめて広く、私たちの身の回りにあるもの全てがそうであるとも言えます。まずは身近なところから興味を持ちましょう。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
ガイダンス(1) 建築材料の変遷と発展(1) 建築材料の分類と選択基準(1) 木構造に用いる材料(4)			授業に取り組む姿勢、建築材料学とは何か理解できる。 建築材料の発達と発展の過程が理解できる。 建築材料の分類・必要な性能および性質・規格などが理解できる。 木材の強度などに関する基本的性質や、それに関連する水分影響を説明できる。 さらに工業製品としての木質材料についても説明できる。				
前期中間試験			実施する				
鉄筋コンクリート構造に用いる材料(7)			鉄筋およびコンクリートの基本的な性質が説明できる。 コンクリートに使用されるセメント、骨材などの材料の特性を把握し、調合から施工に至までの基礎知識を身につけることができる。				
前期期末試験			実施する				
鉄筋コンクリート構造に用いる材料(2) 鋼構造に用いられる材料(3) その他の金属材料(1) 組積造に用いる材料(1)			同上 鋼材の持つ、優れた特性を説明し、その接合方法と腐食のメカニズムや予防措置を理解することができる。 鉄鋼以外の金属の性質や製法を理解することができる。				
後期中間試験			実施する				
ガラス(1) 高分子材料(1) 機能材料(3) 仕上がり材料(2)			ガラスの製法、性質、種類などを説明できる。 プラスチックやゴムなどの製法、性質、種類などを説明できる。 防水材料中の水分の挙動を理解でき、各種防水工法の説明ができる。 断熱材料の性質や各種断熱材料の説明ができる。 仕上げ材の種類と必要な機能が説明できる。				
後期期末試験			実施する				

建築学科			建築設計演習				
学年	第3学年	担当教員名	依田 有康				
単位数・期間		6単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		設計演習を通して建築空間を具体的に表現する能力を養い、専門分野の知識を習得する。 3年次前期では、鉄筋コンクリート造の製図法のトレースと小規模施設の設計により学ぶ。 後期では、より与条件の多い小学校建築を設計し、大きなスケールの図面表現方法を習得する。					
		釧路高専目標	C:90%,F:10%		JABEE目標	d-1-1,f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		1年次使用教科書「建築設計製図」を常に持参すること。 1年次使用教科書のRC構造の設計に関する部分を十分に勉強しておくこと。					
到達目標		RC造の意匠詳細図の図面表現を身に付けることができる。 構造の企画立案から、設計、製図までの一連の設計作業を所定の時間内に成し遂げる能力を身に付けることができる。将来、建築士として実務を行う上で必要な基礎的知識を身に付けることができる。					
成績評価方法		建築学科の3年建築設計演習に関する評価基準に基づき別に定める。 図面内容(80%)+取り組み姿勢・提出期限(20%)					
テキスト・参考書		参考書:建築設計製図(検定教科書) 実教出版 コンパクト設計資料集成(建築学会編) 丸善 1級建築士に合格する設計製図テクニック 東洋書店 など					
メッセージ		授業時間中は、無断で製図室から出ないこと。 提出期限は、必ず守ること。 図面が提出されない限り、次課題へ進むことは許可されない。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1.RC造のトレース 1-2.RC造と課題説明(1回) 1-3.配置図、平面図トレース(6回) 1-4.立面図、断面図のトレース(4回) 1-5.階段平面図、断面図のトレース(4回)			使用教科書のRC構造の設計に関する基礎知識について理解できる。 平面図の描き方を把握し、RCの図面表現を説明できる。 立面、断面図の描き方を把握し図面表現を説明できる。 階段部分の平面、断面詳細図を把握し、図面表現を説明できる。				
前期中間試験			実施しない				
2.学生厚生施設の設計課題 2-1.課題説明(1回) 2-2.設計方針の検討(1回) 2-3.エスキス作成(4回) 2-4.ドローイング(6回) 2-5.パース作成(3回)			前課題で習得した基礎知識を基にして、自ら1000平米程度の施設を対象に、設計、図面作成、透視図までの一連の設計作業を行うことができる。 現在の会館の長所、短所を整理して問題点を明らかにし各自のコンセプトを掲げることができる。設計条件に沿って構想を練ることができる。 基本設計図面が作成できる。透視図法を理解すると共に透視図を作成できる。 プレゼンテーションを行うことができる。				
前期期末試験			実施しない				
3.小学校の設計課題 3-1.課題説明(1回) 3-2.資料収集とレポート作成(3回) 3-3.エスキス作成(11回)			教育施設の設計手法の概要を理解できる。 設計趣旨を理解し、資料収集、基礎スタディを実行できる。 設計手法に沿って、構想を練ることができる。				
後期中間試験			実施しない				
3-4.ドローイング(11回) 3-5.パース作成(3回) 3-6.作品発表会、講評(1回)			基本図面を作成できる。 透視図法を理解すると共に透視図を作成できる。 完成作品の展示と発表が効果的にプレゼンテーションできること。				
後期期末試験			実施しない				

建築学科			国語				
学年	第3学年	担当教員名	小田島本有				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		近年、コミュニケーション能力の養成が従来以上に重視されつつある。この授業ではその基礎力を養うことを主眼として、「読む」「書く」ことの徹底と、「話す」「聴く」ことの訓練を進めていきたい。					
		釧路高専目標	A:30%,F:70%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		教科書、ノートはもちろんのこと、この他に国語辞典、漢和辞典、国語便覧はいつも持参すること。毎週表記トレーニングを実施するので必ず提出すること。自己チェックの甘い学生には再提出を求める。					
到達目標		コミュニケーションの基礎力を養い、「読む」「書く」「話す」「聴く」それぞれの能力を総合的に生かすことができる。また、教材を通じて人類の文化に触れ、幅広い視野に立って物事を捉えることができる。					
成績評価方法		試験(80%)・提出物(20%) なお、表記トレーニングで自己チェックの甘い学生は再提出の結果、条件を満たした場合は提出の扱いをする。					
テキスト・参考書		テキスト:『精選 現代文 改訂版』(筑摩書房) 参考書:『カラー版 新国語便覧』(第一学習社) 大野晋『日本語練習帳』(岩波新書) 梶原しげる『口のきき方』(新潮新書) 小田島本有『釧路から－国語教師のメッセージー』(釧路新書)					
メッセージ		授業を面白くさせるための努力をしてほしい。授業に遅れたり、勝手に休んだりしないことは勿論だが、こちらからの質問にはしっかり答える姿勢を見せること。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
ガイダンス(1回) 「こころ」(夏目漱石)(4回) 表記・聴き取りトレーニング(3回)				日本語そのものへの基本的な認識をもつことができる。 夏目漱石の小説を味わうことができる。 正しい表記・聴き取りができる。			
前期中間試験				実施する			
「こころ」(夏目漱石)(4回) 表記トレーニング(3回)				夏目漱石の小説を味わい、議論ができる。 正しい表記ができる。			
前期期末試験				実施する			
小論文の書き方(4回) 手紙の書き方(2回) 表記・聴き取りトレーニング(3回)				的確な日本語で小論文を書くことができる。 正しいスタイルで手紙を書くことができる。 正しい表記・聴き取りができる。			
後期中間試験				実施しない			
「永訣の朝」(宮沢賢治)(2回) 「濠端の住まい」(志賀直哉)(2回) 表記トレーニング(3回)				宮沢賢治の詩を味わうことができる。 志賀直哉の小説を味わうことができる。 正しい表記ができる。			
後期期末試験				実施する			

建築学科		数学					
学年	第3学年	担当教員名	佐古 彰史				
単位数・期間		6単位	通年	週当りの開講回数	3回	必修	履修単位
授業の目標と概要		解析学の基礎学力養成を目標とする。2年生で学習した微分法の基礎に続き、その応用を修得させる。 次に、積分について基礎的な計算方法を修得させ、面積・体積等への応用に発展させる。さらに、2変数関数について偏微分および重積分の計算と簡単な応用へ進み、最後に微分方程式の基本的な解法を修得させる。					
		釧路高専目標	C:100%	JABEE目標			
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		当り前のことであるが、教科書・ノート等を忘れず持参し、授業の内容をきちんとノートにとることが大切である。 授業で指示された問や練習問題を必ず自学自習し次回の授業のときに解答を示せるように準備しておくことを求める。					
到達目標		基本事項と数学的な考え方を十分理解し、教科書および参考書の問題の6割は自分の力で解くことができる。					
成績評価方法		試験の点数の平均点によって評価する(100%)。 6割以上の場合、授業態度などを10%までの範囲で加減する。 詳しくは数学の評価規準に基づき別に定める。					
テキスト・参考書		教科書：『新訂微分積分Ⅰ』、『新訂微分積分Ⅱ』(大日本図書) 参考書：『高専の数学2 問題集』、『高専の数学3 問題集』(森北出版)					
メッセージ		授業の内容を理解するには復習が欠かせない。 授業のあった日は必ず自分で類似の問題を解いて、理解を深めておく必要がある。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1. ガイダンス(1回) 2. 微分法 ・いろいろな応用(曲線のグラフなど)(4回) 3. 積分法 ・定積分と不定積分(6回) ・積分の計算(11回)			・導関数を求め、グラフの概形をかける。 ・媒介変数表示の関数の微分計算ができる。 ・定積分と不定積分の意味を理解できる。 ・置換積分、部分積分を使った積分計算ができる。 ・三角関数の性質等を利用した積分計算ができる。				
前期中間試験			実施する				
4. 積分の応用 ・面積(6回) ・回転体の体積(5回) ・広義積分(5回) 5. 関数の展開 ・テイラー展開、マクローリン展開(5回) ・オイラーの公式(2回)			・曲線に囲まれた図形の面積が計算できる。 ・回転体の体積が計算できる。 ・媒介変数や極座標をもちいた積分計算ができる。 ・関数の級数展開を理解し、基本的な関数について、そのマクローリン展開ができる。 ・オイラーの公式を説明できる。				
前期期末試験			実施する				
6. 偏微分 ・2変数の関数(2回) ・偏導関数(6回) ・応用(6回) 7. 重積分 ・2重積分の計算(8回)			・2変数の関数を理解し、そのグラフがかける。 ・偏微分の計算ができる。 ・極大・極小の計算ができる。 ・陰関数の微分計算ができる。 ・累次積分により2重積分の計算ができる。 ・積分順序の変更ができる。				
後期中間試験			実施する				
・2重積分の応用(5回) 8. 微分方程式 ・基本的な1階の微分方程式(10回) ・2階線形微分方程式(8回)			・極座標を用いた2重積分が計算できる。 ・立体の体積を2重積分で計算できる。 ・変数分離形と同次形の微分方程式を解ける。 ・1階線形微分方程式を解ける。 ・定数係数の2階線形微分方程式を解ける。				
後期期末試験			実施する				

建築学科			世界史				
学年	第3学年	担当教員名	木村峰明				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		過去の文明が持つ豊かな文化と価値観の多様性の理解に努め、人間社会の歴史としての世界史を学ぶ。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		授業は、テキストを皆さんに読んでもらい、それに解説を加えていく。 テキストをじっくりと読み、解説をしっかりと聞くこと。					
到達目標		歴史的視点をもって過去や近年の出来事の重要性を判断する基礎力を養うことができる。					
成績評価方法		定期試験の平均点が60点を超えている者を合格とする(合否判定＝最終評価)。 60点未満の者には、再試験(又はレポート)を課し、60点以上を合格とする。					
テキスト・参考書		テキスト：堀越宏一「中世ヨーロッパ生活誌」、福井憲彦「歴史学入門」 参考書：「角川世界史辞典」、樺山紘一「ヨーロッパの出現」					
メッセージ		ヨーロッパは、明治以来日本の社会生活と文化に深い影響を与えてきており、それだけにその歴史を知ることとは極めて重要です。私達の日常に入り込んでいるヨーロッパ起源の諸要素について、その原型と変容を明らかにすることは、私達が生きている現代世界の特質のよりよい理解につながるはずです。後半は、さまざまな歴史像が生み出される手続きや発想について考えます。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
*「中世ヨーロッパ生活誌」 1 中世ヨーロッパの歴史を考える(1回) 2 中世ヨーロッパ社会とは何か(3回) 3 中世の人々の一生(4回)			1:現代ヨーロッパの動き、日欧関係の歴史と意義、ヨーロッパ 文明の基層について略述できる。 2:中世生活文化の源(古典古代世界の遺産)、キリスト教と中 世社会の関わり、領土の支配について略述できる。 3:家族のかたち、結婚、子供、弱者救済、死と先祖の記憶に ついて略述できる。				
前期中間試験			実施しない				
4 衣・食・住(6回) 5 前期のまとめ(1回)			4:中世人の王宮と城、農家と町屋、衣服、食生活の特徴につ いて、略述できる。				
前期期末試験			実施する				
6 消費社会のあけぼの (2回) *「歴史学入門」(各2回但し7は1回) 1 歴史の舞台としての環境 2 歴史の重層性と地域からの視線 3 グローバルな歴史の捉え方			6:製鉄の歴史から見た中世社会、商人と国家の台頭し近代が垣間見える15世紀社会の特徴を略述できる。 現在の歴史学の興味深い到達点や可能性を具体的(左記)テーマに即して略述できる。				
後期中間試験			実施しない				
4 歴史人口学が開いた地平 5 人と人とを結ぶもの 6 政治と文化の再考 7 後期のまとめ			現在の歴史学の興味深い到達点や可能性を具体的(左記)テーマに即して略述できる。				
後期期末試験			実施する				

建築学科			体育				
学年	第3学年	担当教員名	館岡正樹・三島利紀				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		各種の運動はその種目によりそれぞれ異なった特性を持っている。こうした特性の違う種目に応じた練習・修得の過程でルール・マナー・安全に対する態度・知識を会得すると共に、体力を高め運動を楽しむ態度を養う。また、協調性・社会性を身につける事を期待する。					
		釧路高専目標	E:50%,F:50%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		講義は全て実技である。実技の実習場所は体育館、屋外(野球場・サッカー場・アイスホッケー場)で行うが、実技にふさわしい服装(運動着・運動靴)で参加すること。					
到達目標		個々人の運動能力や体力に格差が有る事から、一概に設定出来ないが、個々人の体力に応じ、積極的に各種目に参加することができ、運動能力を高めると共に協調性・社会性を身につける事ができる。					
成績評価方法		運動への取り組み状況・意欲・協調性(70%)運動能力等(30%)とし、総合評価を行う。合否判定もこれに同じ。したがって運動が不得手だからといって、評価が下がる事はない。積極的に取り組む事が肝要。					
テキスト・参考書		参考書;イラストによる最新スポーツルール(大修館)					
メッセージ		屋外での種目は、天候により適宜屋内種目に変更する。また運動が得意な人、不得手な人等個人差があると思われるが、得意・不得手にかかわらず積極的に参加すること。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
・ガイドンス、柔軟体操、ストレッチ (1回) ・バレーボール (基本・応用練習) (2回) バレーボール (ゲーム) (2回) ・体力診断テスト (1回) ・運動能力テスト (1回)				・1年の授業の流れと注意事項。 ・レフト、センター、ライト、セッター等、基本ポジションの役割を理解できる。 ・基本ポジションを意識したゲームをすることができる。 ・自己の体力を確認することができる。 ・自己の運動能力を確認することができる。			
前期中間試験				実施しない			
・ソフトボール(基本練習) (1回) ソフトボール(ゲーム) (3回) ・サッカー (基本練習) (2回) サッカー (ゲーム) (2回)				・ゴロ・フライ捕球からの送球ができる。 ・チーム同士で協力して安全に配慮したゲームの運営・進行をすることができる。 ・フォーメーションを理解できる。 ・オフェンスとディフェンスに分かれ仕事の役割が理解できる。 ・チーム同士で協力して安全に配慮したゲームの運営・進行をすることができる。			
前期期末試験				実施しない			
格技(柔道・剣道選択) 基本・応用練習 (2回) 試合 (3回) ・種目選択(テニス・羽球・フットサル・卓球・バスケットボール等) (2回)				・1年次及び2年次の基礎を確認することができる。 ・お互いに安全に注意し相互審判をしながら試合ができる。 ・各種の運動種目を行う事で、運動能力・身体能力を高めると共に、団体・個人種目への参加を通じて、社会性、協調性を身につける事ができる。			
後期中間試験				実施しない			
・種目選択(テニス・羽球・フットサル・卓球・バスケットボール等) (3回) ・アイスホッケー(基本練習) (2回) アイスホッケー(ゲーム) (3回)				・各種の運動種目を行う事で、運動能力・身体能力を高めると共に、団体種目・個人種目への参加を通じて、社会性、協調性を身につける事ができる。 ・簡単なフォーメーションができる。 ・ポジションの特質を生かしたゲーム展開ができる。			
後期期末試験				実施しない			